

教 科	外 国 語	科 目	論理・表現Ⅱ
履修条件 対象生徒	選択必修 デザイン科 3 学年		
学習目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。		
学習方法	[授業] ・教科書を中心に学習し、必要な表現を覚える練習をする。 ・コミュニケーションに必要な文法・語法を深く理解する。 ・ペアやグループ、一斉等、様々な形態を用いて多種多様な会話表現に慣れる。 ・その日の授業で学んだことの復習をする。 [補習・その他] 与えられた補助教材を活用して、自主的かつ意欲的に取り組む。		
学習計画 と ねらい	< 1 学期末考査まで > 自己紹介、授業説明 Lesson1. School Festival Lesson2. A Trip to Sapporo Lesson3. My Dear Friend Lesson4. A Dog in a Barbershop Lesson5. Japanese Food Lesson6. Volunteer Activities Lesson7. A Stage Actor Lesson8. I like Singing < 2 学期末考査まで > Lesson9. Cycling Lesson10. My New Hiking Boots Lesson11. The Yangtze River Lesson12. My Sister's Job Lesson13. In Kansas City Lesson14. Dreaming of Space Lesson15. An Android Like You Lesson16 I Left My Smartphone ○ 授業の進め方、予習・復習のし方の説明 ○ 「～である」「～する」「～している」などを英語で表現できる。 ○ 未来の予測や計画などについて英語で表現できる。 ○ 現在における完了、経験、状態・動作の継続の意味を英語で表現できる。 ○ 過去の状態や習慣、過去についての水量などを英語で表現できる。 ○ 「～される」「～だと言われている」「～に喜ぶ」などを英語で表現できる。 ○ 「・・・に～するように進める」「・・・に～させる」「・・・が～すること」など。 ○ 「～だったと言われている」「～するほど・・・」「・・・すぎて～できない」など。 ○ 「～すること」「～したこと」「～するのに慣れている」など。 ○ 「～しに行く」「～しているのを・・・する」「～しながら」など。 ○ 「同じくらい～」「より～」「～すればするほど・・・」など。 ○ 「最も～」「何番目に～」「ほかのどの・・・よりも～」など。 ○ 「～する人/物」や、「人/物」についての補足説明を関係代名詞を用いて表現できる。 ○ 「～すること」「～する場所/時」の補足説明を関係詞を用いて表現できる。 ○ 「もし～ならば、・・・するだろうに」と、事実と異なる仮定を英語で表現できる。 ○ 「～ならいいのに」「まるで～のように」「万一～ならば」など。 ○ 「～であると気づいた」「～であるかどうか尋ねた」などを英語で表現できる。		
評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して、話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して、話したり書いたりして伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話したり、書こうとしたりして話している。
評価の方法	ループリック評価表を利用して、評価の観点、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点から、授業態度、テスト結果、提出物などの学習活動を総合的に判断して評価する。		